



スマートフォン（以下、スマホ）の機能はすごいスピードで進化しています。そう遠くない将来、スマホによる同時通訳が当たり前に行われる時代がくるかもしれません。

しかし、その時代になってもビジネスの世界では、相手の表情を観察しながら、相手が使うそのままの言語に接して、その抑揚やアクセントから相手の伝えようとするニュアンスを読み取る能力は引き続き必要とされると思います。

今回は、進化するスマホを使っの Digital 辞書の活用法についてお話しします。

1 本の辞書から Digital 辞書へ

今となっては、「昔々」の話になってしまいましたが、分からない言葉（単語）があれば、本（紙）の辞書で単語を調べるのが当たり前でした。しかし、ここ数年の Digital 化の進展により、英語など外国語の検索は驚くほど便利になり、Digital 辞書の活用が一般化しました。

とりわけスマホの利便性の驚異的な改善により、知らない単語もいつでもすぐに検索できるようになり、本の辞書に比べれば遥かに少ない時間で意味や発音を調べることができるようになりました。しかも多くが無料でその機能を提供しています。

本の辞書で英語を学んだ人の中には、「Digital 辞書は便利過ぎてなかなか単語を覚えない。本の辞書をめくり、手間をかけ、苦労して単語を覚えるからこそ、頭に残るのだ。カーナビが出来て紙の地図を使わなくなり、道を覚えなくなったのと同じだ」とおっしゃる方もいらっしゃいます。一理あると思います。

しかし Digital 辞書のメリットは、知らない単語の検索時間の短縮だけではありません。

2 発音も検索しましょう

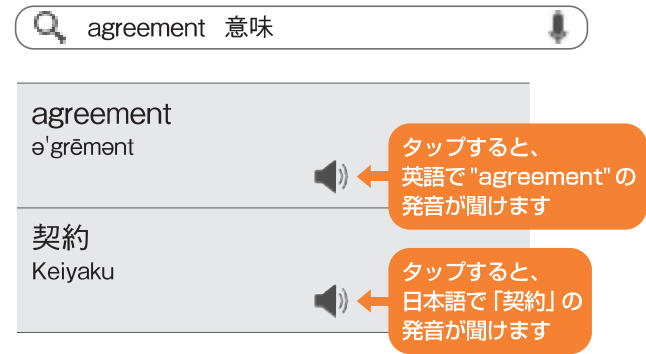
本の辞書では、知らない単語を調べたとしても、発音記号から発音を判断するしかありませんでした。しかし、Digital 辞書では、スピーカーアイコン🔊をタップすれば発音も聞かせてくれます。

Digital 辞書の中には、英国人の発音と米国人の発音を聞き比べることができるものもあります。例えば、can't（～できない）は、英国人の発音では「カーント」、米国人の発音では「キャント」に聞こえますが、その Native の発音も聞き比べることもできるのです。

また、語学を学ぶときに重要なのは、実際にその単語を、自分で発音してみることです。頭の中に覚えこんだと思った単語も、いざ発音してみると相手に通じないということもよくあります。

そこでスマホの音声検索機能を活用してみましょう。

例えば、スマホで Google の検索バーのマイクアイコンをタップして「agreement 意味」と声を発すると、正しい発音ができているれば、スマホには以下のように表示されます。



それを下にスクロール（scroll down）すれば、

「agreement」の翻訳
名詞
契約 contract, agreement, compact
合意 agreement, consent, mutual understanding

多くの同義語や他の意味を知ることができます。

ここでいくつかの Digital 辞書をご紹介します。いずれも「agreement 意味」と発声すると検索上位にくる Digital 辞書です。

- ①Weblio 英和辞書
 - 学習レベルが表示されるのが特徴です。agreement の検索では以下のように表示されます。
 - レベル：レベル 3
 - 学校レベル：高校 2 年以上の水準
 - 大学入試：センター試験対策レベル
 - 英検：準 2 級以上合格に覚えておきたい単語
 - TOEIC® L&R スコア：470 以上取得に覚えておきたい単語
- ②Cambridge Dictionary
 - 英英辞書ですので、単語の説明など、説明が英語でなされています。
 - UK（英国）と US（米国）の後にある🔊をタップすれば、英国流と米国流の発音の違いを聞き比べることができます。

3 例文と使い方も検索してみましょう

Digital 辞書の便利なところは、それに留まりません。

例えば、「agreement 使い方」と検索バーに打ち込んでも良いですし、🔊をタップして「agreement 使い方」とスマホのマイクに向かって発声しても良いのですが、この agreement を使った例文が数多く例示され、中には文章の後にスピーカーアイコン🔊があり、それをタップすると、その文章を Native Speaker が朗読してくれるものもあります。

4 Non-Native 英語への対応

Digital 辞書で英単語の意味を知り、Native speaker の発音を聞いて会議に臨んでも、参加者がみんな Native の発音をする訳ではありません。

世界で英語を話す人口は 15～17 億人、うち Native speaker は 5 億人前後と言われています。

会議では、インド訛りの英語、中国語訛りの英語を聞く機会も多く、ちょっとした発音やアクセントの違いで、意思疎通ができないことは決して珍しくありません。

アジアに近い九州の企業にとっては、アジアに海外現地法人やお取引先を抱える企業が多いと思います。会議では、Non-Native 同士の会話になる可能性が高いことから、自分の発音を通じなかった時のために、事前に同義語を調べ、他にどんな表現があるかを調べておくことが、奏功する場面は多いと思います。

例えば、「契約にあたっては裁判管轄を予め決めて、契約書の中に記載しておきましょう」と提案するのであれば、"I would like to suggest" の後に、

"A jurisdiction clause must be stipulated in this agreement."

"Articles of court of a jurisdiction should be included in our contract."

"In case both of our parties have a dispute, court of a jurisdiction must be mentioned in this agreement."

などなど、多くの表現の仕方があります。Web 会議では相手の表情が見えています。相手の反応を見ながら、自分の英語が通じていないと思ったら、違った言い方をしてみましょう。それを行うことで、相手との意思疎通は格段に改善すると思います。